

「海の学び ミュージアムサポート」
プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

2. 申請事業

事業名(企画展・特別展名)	企画展「さわってみよう□□□湾にすむ海の生物」
事業期間	2019年□□月□□日～2020年□□月□□日 ※原則 4/1～翌年 3/31 迄。事前着手・延長の必要がある場合は要相談。
会期 (企画展開催期間)	会期：2019年□月□日(□) ～ 2019年□月□日(□) 実開催日数計：□□日間(会期中の休館日等を除く)
主催者名	□□□□□博物館
共催・後援・ 協力者名称等	□□□□□ □□□□□
開催場所(博物館名)	□□□□□博物館 ※巡回や複数館での開催となる場合、場所ごとの会期も記入。
展示会場名/面積(m ²)	□□□□□/□□□m ²
目標入場者数	□□□□人
申請会期の前年度入場者数	□□□□人

■事業全体の趣旨やねらい(簡潔に箇条書きで)

事業全体の 開催趣旨、目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の中でも屈指の多様性を誇る□□□湾の生物相とその特異な地形を紹介する。 ・海の豊かな資源に対する研究や利用方法への理解を深める。 ・□□□湾で発見された新種や日本初記録種を提示することで、身近な海に研究の題材が存在すること、またその研究成果を周知する。 ・□□□湾で漁獲され、食用とされる生物の詳しい生態や利用方法をその漁法と共に紹介する。 ・各付帯事業で、上記内容をさらに深く学ぶ機会とする。
事業全体の ねらい・効果 (期待される成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・□□□湾は非常に多くの海洋生物が生息し、未だに新種が発見されている。また、人々はその豊かな海洋資源の恩恵を受けていることを学ぶ。 ・この特別展では□□□湾に生息する、多種多様な生物とそれらに関する研究や資源利用について学び、身近な地元の海への興味や関心を喚起する。また、そこからこの豊かな海を守り、受け継いでゆく使命を、幅広い年齢層に楽しく理解できる効果を持たせる。 ・この特別展や付帯事業を経験することにより、海を安全に楽しく利用できる人材の育成とその技術の習得をねらいとする。

■「海の学び」活動としての趣旨やねらい(簡潔に箇条書きで)

「海の学び」活動としての 開催趣旨、目的	<ul style="list-style-type: none"> ・特異な地形を持つ□□□湾、湾の形状や多様性に富んだ生物を紹介することで身近な海を知り、誇るべきこの自然を守り、引き継ぐ必要性を理解していただく。 ・海を継続的に利用するためには、海を知らなくてはならない。そのためには何をどのように学べばよいのかを体験を通して習得していただく。 ・海を利用して学習するために、安全の確保が重要である。そのための知識と技術の普及を目的とする。
「海の学び」活動としての ねらい・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で有数の深い海である□□□湾には、新種や日本初記録種等、非常に珍しい生物が生息する。この恵まれた海の環境とそこに生息する生物を守り、未来まで

「海の学び ミュージアムサポート」
プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

(期待される成果)	<p>引き継いでいくことの重要性を理解していただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究を行うことを疑似体験し、これからさらに発展が期待される海や深海への研究者への道を考える機会を提供する。 ・海を安全に利用できるよう、現場においての着眼点や安全確保の重要性の周知、またリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
-----------	---

■事業概要（箇条書きで）

主な展示 (章やテーマなど)	<p>本企画展を構成する章やテーマを箇条書きで</p> <p>※詳細は次項4に記入すること</p> <p>※「海の学び」に関連した章やテーマには☑を記入すること</p> <p>☑①展示「□□□湾ってどんな海？」</p> <p>☑②展示「□□□湾の魚たち」</p> <p>☑③展示「□□□湾にすむ魚の研究の最前線」</p> <p>☑④展示「□□□湾の海の幸」</p>
主な付帯事業	<p>本企画展に関連して実施予定の付帯事業について箇条書きで</p> <p>※詳細は次項4に記入すること</p> <p>※「海の学び」に関連した活動には☑を記入すること</p> <p>☑①「さわって見よう□□□湾の生物」</p> <p>☑②「アクアリウム・ふえす」</p> <p>☑③サマースクール「魚と遊ぼう！」</p> <p>☑④「研究者になって魚の絵を描いてみよう」</p>
連携	<p>本企画展に関連した連携先の機関・団体等（正式名称）を条書きで</p> <p>※詳細は次項4に記入すること</p> <p>※「海の学び」に関連した機関・団体等には☑を記入すること</p> <p>☑①□□□市教育委員会</p> <p>☑②□□□港漁業協同組合</p> <p>☑③□□□学校</p> <p>☑④□□□大学</p>

「海の学び ミュージアムサポート」
プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

<p>事業成果物 ※本事業を通じて 製作予定のもの (チラシ等印刷物件、 展示資料・看板等製作物件)</p>	<p><チラシ等印刷物件> ① イベントチラシ □万枚 ② チラシ折込 □万 ③ ワークシート □万部 来館者に配布 ④ テキスト3種×□部 イベント参加者に配布</p> <p><展示資料・看板等製作物件> ⑤ 海底地形の立体模型 ⑥ 生態系ピラミッドのパネル ⑦ 調査の様子を記した映像資料</p> <p>※上記項目については、企画展内のどこで活用するのか、4. (1) 展示内容の詳細 (p5 以降) を記載いただく欄内への記入をお願いします。</p>
<p>広報計画 ※配布物、数量、配布先、 掲出媒体等(予定含む)</p>	<p><配布物/数量/配布先> ① チラシ折込 □万枚 ② チラシ □万枚 新聞折り込み ③ 近隣保育・幼稚園・小学校・公民館各所に配布。</p> <p><掲出媒体> ※WEB、看板等 ① 当館 HP、当館ブログ ② 地元 テレビ局・新聞社</p>

3. 「海の学び」活動としての事業目標

<p>定量的目標 ※簡潔に箇条書き ※具体的な数値等を入れる</p>	<p>①会期中の入場者 □□□□人 ②企画展に関連する付帯事業 4種の実施 計□名参加者。 「さわって見よう□□□湾の生物」 □名×□回 「アクアリウム・ふえす」 期間中□日×□名 サマースクール「魚と遊ぼう！」 □名×□回 「研究者になって魚の絵を描いてみよう」 □名×□回 ③ 企画展用ワークシート 1種作成 ④付帯事業用ワークシート 3種作成</p>
<p>定性的目標 ※簡潔に箇条書き</p>	<p>⑤日本で有数の深い海である□□□湾には、新種や日本初記録種等、非常に珍しい生物が生息する。この恵まれた海の環境とそこに生息する生物を守り、未来まで引き継いでいくことの重要性を理解していただく機会とする。 ⑥研究を行うことを疑似体験し、これからさらに発展が期待される海や深海への研究者への道を考える機会を提供する。 ⑦海を安全に利用できるよう、現場においての着眼点や安全確保の重要性の周知、またリーダーシップを発揮できる人材を育成する</p> <p>※事業全体の特色がわかるよう、概要を簡易にまとめてください。</p>

※この事業目標は、採択時の契約事項として関連書類に記載されます。

「海の学び ミュージアムサポート」
 プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

4. 「海の学び」に関連した事業内容の詳細

展示

(1) 展示を構成する章やテーマを全て記載の上、各章やテーマごとの詳細(「海の学び」に関する展示の工夫や見込める効果)を記入すること(予定を含む)

①	展示 (どのようなテーマ、内容で)	<ul style="list-style-type: none"> ● 名 称:「□□□湾ってどんな海？」 ● 主な展示物:海底地形の立体模型 水温変化の解説ハンズオン ● 内 容:本企画展の導入として地形・海流・海洋構造・水温等の解説パネルと立体模型等により、□□□湾の環境を紹介。
	展示の工夫 (どのような手法で)	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本有数の深さを誇る□□□湾の特異な海底地形について立体模型等により、湾内の海流の動きや性質の異なる海水の分布状況を視覚的に理解できるように展示する。 ● 水深に応じた水温の違いを体験できるようにする。 ● 企画展来場者に向けて海の学びに関するワークシート(企画展資料の解説や穴埋め式でキーワードを書き込めるもの)を展示場入り口にて配布し、学びを深められるようにする。また、企画展終了後も本展示内容を振り返れるようにする【以下、全章同様】
	展示による効果 (「海の学び」活動として、どのような効果が見込めるか)	<ul style="list-style-type: none"> ● 海底地形の立体模型等を用いることで、目に見えない水面下の複雑な環境と形成要因を共に理解することができ、海の自然への興味・関心を高める。 ● 水温変化の解説ハンズオン等により、深くなるほど冷たくなるという深海の特徴や、地域の特色ある海の環境について体験的に学ぶことができ、身近な海が日本でも非常に珍しい地形であることを知り、地域の海への興味関心を喚起する効果が見込める。

②	展示 (どのようなテーマ、内容で)	<ul style="list-style-type: none"> ● 名 称:展示「□□□湾の生物たち」 ● 主な展示物:□□□湾の生物の生体・標本 □□□湾のマップ生態系ピラミッドのパネル ● 内 容:展示①で□□□湾の環境を紹介した後、日本で屈指の多様性を誇る□□□湾の生物相について紹介する。
	展示の工夫 (どのような手法で)	<ul style="list-style-type: none"> ● □□□湾内に出現する様々な種の標本や生体を展示し、各種の形態的・生態的特徴を間近で観察できるようにする。 ● □□□湾のマップや生態系ピラミッドのパネル等を使って、湾内の環境に合わせて様々な生物がいること、そしてそれら生物は食う食われるといった生態系ピラミッドがあることを紹介することで各種の分布状況を明瞭に示す。 ● 分類体系を考慮した展示配置により、類縁関係を意識して各種を比較・観察できるようにする。
	展示による効果 (「海の学び」活動として、どのような効果が見込めるか)	<ul style="list-style-type: none"> ● □□□湾の生物の生体・標本等により、普通種から希少種までを含む湾内の生物相の豊かさと各種の特徴を知ることができる。 ● □□□湾のマップと生態系ピラミッドのパネル等により、□□□湾に

「海の学び ミュージアムサポート」
プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

		<p>生息する生物同士、さらには環境と生物の相互関係を理解し、生物多様性への興味・関心を喚起すると共に、豊かな生態系の保護・保全への意識を持つきっかけづくりとなることが期待できる。</p>
--	--	--

③	<p>展示 (どのようなテーマ、内容で)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 名称: 展示「□□□湾にすむ魚の研究の最前線」 ● 主な展示物: □□□湾の魚類相に関する研究年表 調査の様子を記した映像資料 調査で使用した研究資料や道具の展示 □□□湾で発見された新種の標本 魚類分類のチャートクイズ ● 内容: 展示②で地域の湾内に生息する魚の概要を学んだ後、□□□湾の魚類相や新種・日本初記録等に関する研究の歴史と研究方法を紹介する。
	<p>展示の工夫 (どのような手法で)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● □□□湾の魚類相に関する研究年表を作成し、主要な文献も展示して、研究の功績と進展の過程を理解できるようにする。 ● □□□湾で発見された貴重な標本(当館職員が発見した種を含む)を展示し、間近で観察できるようにする。 ● 研究に必要な道具を扱ったり、技術を疑似体験したりすることで、研究する楽しさを実感できるようにする。
	<p>展示による効果 (「海の学び」活動として、どのような効果が見込めるか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● □□□湾の魚類相に関する研究年表を展示することによって、多くの研究者による地道な研究の積み重ねが、魚類相の解明という大きな成果に結びついていることを知り、海に関する基礎研究の重要性に理解を深める。 ● 映像資料によって研究者が実際に海で調査している様子を見ることや、□□□湾で発見された新種の標本展示により、身近な海に未だ多くの科学的発見のチャンスがあることを示し、未知の海を解き明かしたいという探究心を育むと共に、次世代の海洋研究者の育成を図る。 ● 調査で使用した研究資料や道具の展示や魚類分類のチャートクイズによって、体験的展示を通じて子ども達が「研究する楽しさ」を実感できるようにすることで、海を入口とした理科系科目への興味・関心を高める。さらには、試行錯誤をしながら親子で展示に取り組むことで、海に関する活発なコミュニケーションを発生させる。

④	<p>展示 (どのようなテーマ、内容で)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 名称: 展示「□□□湾の海の幸」 ● 主な展示物: □□□湾に生息する魚の生体展示 実際に□□□湾で使用されていた漁具や作業時の様子の写真 私たちの身近にある食以外の海の幸 ● 内容: 私たちの暮らしと□□□湾とのつながりの理解に向けて、□□□湾で漁獲されている食用魚を、その漁法、利用法等と共
---	------------------------------	---

「海の学び ミュージアムサポート」
 プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

		<p>に紹介する。</p>
	<p>展示の工夫 (どのような手法で)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 私たちが身近に利用する魚から、普段の日常では気がつかないマイナーな魚までを網羅した生体展示により、□□□湾の豊かな漁業資源を実感できるようにする。さらに、これら海の幸は、常にとれるものではなく、季節や海の状況に応じて変化するものであることがわかるように、特別展の開催中に、各時期ならではの漁業資源をリアルタイムに展示する。 ● 湾内の様々な漁業の種類や仕組みを、実際の漁具や操業時の写真を交えて臨場感ある演出のもと展示することにより、当時の漁業者の様子を視覚的にとらえて、漁業の様子をイメージしやすくする。 ● 食卓だけではなく、薬や肥料といった海の恵みを利用した製品を紹介することにより、「食べる」だけではない私たちの生活と身近な海の生物とのつながりについて理解を深める。
	<p>展示による効果 (「海の学び」活動として、どのような効果が見込めるか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● □□□湾に生息する魚の生体展示を通して、漁場としての□□□湾の重要性を県内外の多くの人に知らしめる。さらに、身近な魚をテーマにすることで、日常生活において海や魚のことを意識する機会を増やす。 ● 実際に□□□湾で使用されていた漁具や操業時の様子の写真の展示を通して、様々な漁法や実際に操業する漁業者の工夫や努力を知り、漁業への理解を深める。 ● □□□湾に生息する魚の生体展示や私たちの身近にある食以外の海の幸の展示により、豊富な漁業資源の存在を知り、海からの恩恵を再認識すると共に、地域の海を守り、未来まで引き継いでいくことの重要性について考えるきっかけを提供する。

※表が不足する場合は適宜追加すること

※事業概要の番号と連動させること

「海の学び ミュージアムサポート」
 プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

付帯事業

(2) 付帯事業を全て記載の上、各事業の詳細(「海の学び」に関する工夫や見込める効果)を記入すること(予定を含む)

①	付帯事業名 日時および開催場所 想定規模(人数や回数等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業名:「さわって見よう□□□湾の生物」 ● 日 時:2019年□月□日～2019年□月□日 ● 場 所:□□□□ ● □名×□回
	付帯事業内容 (内容、展示との関連性)	□□□湾で見られるサメ・エイ類をはじめ小型魚類と海岸動物をスタッフ指導の下、見て触れる展示。更に海の生物に関する理解をより深めるため、ガラス越しではなく、水中で生物を観察することは有意義である。しかし、シュノーケリングによる海での事故は毎年起こっている。ここでは、シュノーケリングの技術を学びながら、海の生物の魅力を感じていただく。そして、海を安全に利用できる人材の育成を目指す。
	工夫 (どのような手法で)	<ul style="list-style-type: none"> ● 円形水槽でサメとエイに、小型水槽では海岸生物に触れて、観察する。更に大きめの水槽では□□□湾で見られる小型魚類を展示し、マスクとシュノーケルを装着して水槽内の魚を観察する。 ● シュノーケリング水槽の参加者は毎回レクチャーを受ける。シュノーケルは哺乳瓶用消毒液で毎回消毒する。 ● 救急法救急員資格取得者を常駐させる。 ● タッチプールで見られる生き物の名前や解説、シュノーケルや磯遊びなどの注意点をまとめたワークシートを作成し学びを深められるようにする。また、今後の地域の海辺での活動時に役立ててもらう。
効果 (「海の学び」活動として、どのような効果が見込めるか)	<ul style="list-style-type: none"> ● 水中観察によるガラス越しとは異なった、これまでにない感覚の魚の観察を体感できる。 ● 水中での野外観察模擬体験を行うことで、水中生物に関する学術的興味を持たせる。 ● シュノーケルの正しい使用法を学び、野外でのシュノーケルによる事故を軽減することができる。さらに、疑似的なシュノーケル体験を通して、実際の海における注意すべき着眼点や安全確保の重要性を周知させることで、海を安全に利用できる人材の育成が期待される。 ● 水族館活動における新たな展示手法のモデルとすることができる。 	

②	付帯事業名 日時および開催場所 想定規模(人数や回数等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業名:「アクアリウム・ふえす」 ● 日 時:2019年□月□日～2019年□月□日 ● 場 所:□□□□ ● 期間中□日開催、□名
	付帯事業内容 (内容、展示との関連性)	4～5ブースをセットし、来館者に地元の海洋生物や海洋に関する実験・工作等を行う。

「海の学び ミュージアムサポート」
プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

	<p>工夫 (どのような手法で)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● ブース内に解説スタッフを配置し、それぞれに詳しく解説を行う。 ● 対人で解説、展示を行うため、無人では扱えないような標本や生物を来館者の間近で展示することができる。 ● 連携先の□□大学□□学部の学芸員課程博物館実習の学生が来館者への実験や工作の補助、ならびに海の生物に関する解説のために参加する。 ● 実験・工作に関する解説文と、関連するキーワードを参加者が記録するための穴埋め式のワークシートを作成し学びを深められるようにする。また、学んだことを家庭内で振り返れるようにする。
	<p>効果 (「海の学び」活動として、どのような効果が見込めるか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏のお盆付近の時期に海に関する内容で行うため、夏の自由研究等の題材を提供することができ、家庭での学習の一助となる。 ● 連携先の□□大学□□学部の学芸員課程博物館実習の学生にとって本事業は、対話式の展示場であるため、スタッフとのやり取りの中から海や生物のためには、自分で何ができるか考える機会を提供でき、海を伝える次世代の人材を養うことにつながる。 ● 博物館実習の学生にとって海や海洋生物の面白さを来館者に分かり易く伝える工夫や努力をすることは貴重な学びの機会であり、将来、博物館・水族館で仕事をする上で役立つ効果が見込める。

③	<p>付帯事業名 日時および開催場所 想定規模(人数や回数等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業名:サマースクール「魚と遊ぼう！」 ● 日 時:2019年□月□日～2019年□月□日 ● 場 所:□□□□ ● □名×□回
	<p>付帯事業内容 (内容、展示との関連性)</p>	<p>県内の小学校□年生を募り、当館付近の海で地引網を行い、身近な□□湾に生息する海洋生物を調査する。採集した生物は生きたまま館に運び入れ、生物解説後、参加者が展示水槽を立ち上げる。生物の図や解説等も作製する。</p>
	<p>工夫 (どのような手法で)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 実際の海で地引網を引く体験を通して、身近な海にどのような生物が生息しているかを知る。実際に体験することは非常に重要である。 ● 参加者が自ら立ち上げる展示水槽で暫くの間、生物を一般来館者に対して展示する。
	<p>効果 (「海の学び」活動として、どのような効果が見込めるか)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 実体験として生物を採集し、飼育するという水族館業務の入口とも言える作業を行うことができる。飼育の難しさや注意する点等を学ぶことができる。 ● 小さいコミュニティではあるが、初めて会った参加者同士で協力して地引網を引く。海や自然を相手に力を合わせて魚を捕り、飼育水槽を立ち上げるという共通の目的を達成する非常によい経験となり、海に親しみ、海を好きになるという効果が見込める。 ● 展示水槽を人前に出すということで、海洋生物に関する情報を明るく、解りやすく人に伝えることを実際に行うことができる。

「海の学び ミュージアムサポート」
 プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

④	付帯事業名 日時および開催場所 想定規模(人数や回数等)	<ul style="list-style-type: none"> ● 事業名:「研究者になって魚の絵を描いてみよう」 ● 日 時:2019年□月□日～2019年□月□日 ● 場 所:□□□□ ● □名×□回
	付帯事業内容 (内容、展示との関連性)	主展示のメインテーマである「魚類相」の研究において、魚類を正しく分類あるいは同定することは極めて重要である。各種の細部の特徴を正確に理解するツールとしては、古くからスケッチが重宝されてきた。この付帯事業では、参加者にスケッチを描いていただきながら、その意義と作図の技術を伝えることを目的とする。
	工夫 (どのような手法で)	<ul style="list-style-type: none"> ● 当館で魚類の分類に取り組み、実際に複数のスケッチを描いている学芸員が、自らの経験を交えつつ、参加者に講演する。 ● 熱収縮するプラスチック板を用いて、描いたスケッチをキーホルダーにする工程を設け、楽しく作図に取り組めるようにする。尚、スケッチを縮小して使用することは、図の見栄えを良くするために実際に研究者が用いるテクニックである。 ● スケッチをするための枠と、ワークショップ内での解説を穴埋めするワークシートを作成し学びを深められるようにする。また、学んだことを家庭内で振り返れるようにする。
	効果 (「海の学び」活動として、どのような効果が見込めるか)	<ul style="list-style-type: none"> ● 実践的なスケッチの体験により、魚の細部を良く見る観察眼を鍛えることができる。 ● 娯楽的要素を取り込むことで、実際には専門的な内容を抵抗なく学ぶことができる。 ● 魚の形態や分類に関する研究分野への関心を高めることができる。

※表が不足する場合は適宜追加すること

※事業概要の番号と連動させること

(3) 本企画展に関連した他の博物館や機関、学校など地域社会との連携について詳細(「海の学び」に関する工夫や見込める効果)を記入すること(予定を含む)

①	連携先 (機関、団体名)	□□□□教育委員会
	連携内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 企画の参加者募集に関する協力 ● 市内小学校へのチラシ配布 ● 後援
	見込める効果	<ul style="list-style-type: none"> ● このイベントに際し、県内での参加者を募ることができる。 ● 今後も学校教育を巻き込み、県内で広く海に関する教育活動を周知・実施することができる。 ● 教育委員会に認められたイベントとして、その公共性が高くなる。

②	連携先 (機関、団体名)	□□□□□漁業協同組合
	連携内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物採集に関する協力
	見込める効果	<ul style="list-style-type: none"> ● □□□湾に生きる、各季節の生物を採集することができる。 ● 良い漁場でスムーズに生物を採集することができる。 ● 突発的に貴重な生物が採取された場合など、漁師の方が生物を良い状態を保ち、保管して下さる。 ● 今後もイベント等で生物が必要となった場合の相談や生体展示への協力といった連携体勢が構築される。

「海の学び ミュージアムサポート」
 プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

連携

③	連携先 (機関、団体名)	動物飼育系専門学校
	連携内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 海の生物に触れることの出来るプール・シュノーケリング水槽で水族館活動の実習を行う。
	見込める効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 水族館などに就職を希望する学生が参加者との対話の中から将来に有用な経験を積むことができる。 ● 専門学校の時代に関わった当館職員とは就職後の水族館でも連携が引き続き、各館での協力体勢が構築される。 ● 専門学校内でも生徒参加のイベントに関して周知され、遠方でも報じられるなど広報的効果も大きい。

④	連携先 (機関、団体名)	□□大学□□学部
	連携内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 夏のイベントを、学芸員課程の博物館実習の場とする。
	見込める効果	<ul style="list-style-type: none"> ● 学生にとって博物館の実際の現場に立ち、来館者と対話をしながら接することで、博物館・水族館での仕事を体験・理解できる重要な場となる。 ● 学生時代に関わった当館職員とは就職後の水族館でも連携が引き続き、各館での協力体勢が構築される。 ● 現場は活気に溢れ、博物館や学生にとっても、非常に良い。何より来館者から見て好印象である。

※表が不足する場合は適宜追加すること

※事業概要の番号と連動させること

「海の学び ミュージアムサポート」
プログラム1 「海の企画展サポート」 支援申請書

5. 開催博物館について

公式ウェブサイト URL 等	http://www.□□□□.□□□□
常設展示のおもな内容	□□□□ □□□□ □□□□ □□□□
展示関連部署職員数/合計職員数	□□人 / □□人
年間事業費/年間運営費(前年度)	□□□□円 / □□□□円
年間入場者数 ※前年度までの3箇年分	2018年度: □□□□人 2017年度: □□□□人 2016年度: □□□□人

●過去に開催した「海の学び」につながる主な企画展・特別展の名称・会期・入場者数

名称	会期	入場者数
企画展『海の生物コレクション』	2018年□月□日～□月□日	□□□□人
企画展『シーラボに潜入調査!』	2016年□月□日～□月□日	□□□□人

●過去に開催した「海の学び」につながる企画展・特別展以外の博物館活動

名称	概要
体験学習「1日まるごと飼育員体験」	学校団体に向けて水族館の施設、設備をガイドツアー形式で紹介する。飼育体験では調餌や給餌など生物飼育に関わる作業を職員の指導を受けながら、体験することができる。

●博物館活動における学校との連携事業があればご記入ください

名称	概要
□□高等学校との連携事業	宿泊を伴い、魚の解剖や昼夜それぞれ採取したプランクトンの違いを、顕微鏡を用いて観察。また磯で生物を採集・観察。

【簡易アンケートご協力お願い】 ご申請にあたり、本サポートについてどちらでお知りになりましたか? 該当項目に☑をお願いします。※なお、本質問に対するご回答と選考は一切関係がありません。

「海の学び ミュージアムサポート」ホームページ 船の科学館からのダイレクトメール

日本博物館協会からの案内 日本動物園水族館協会からの案内

他館からの紹介 (さしつかえなければどちらの館か教えてください: _____)

その他 (_____) ご協力いただき、ありがとうございました。

※必要添付書類

- ①申請事業予算書【必須】
- ②開催館のリーフレットや行事予定表等、館の概要・活動状況等の分かる資料
- ③申請事業に関する補足資料 (別途資料がある場合のみ)
- ④申請者の組織表 (実行委員会等の任意団体が申請者の場合のみ)
- ⑤指定管理者契約等の契約書の写し